



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さま等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.25 地域連携病院②「兼松病院」

今回は、在宅復帰のためのリハビリテーションに独自の工夫を取り入れている兼松病院を紹介します。

■ 在宅復帰のためのフォローアップ

兼松病院は鳴門市中心部にあり、地域医療に力を入れており、「病気に休みはない」との先代院長の考えの基に平成9年より年中無休で外来診察を行っています。徳島大学病院からは脳卒中や外科術後、緩和ケアの病院として紹介されています。リハビリテーション(以下、リハ)に特に力を入れており、回復期リハ病棟だけでなく、地域包括ケア病棟や一般病棟でも一年365日のリハを提供しています。その結果、約80%と高い在宅退院率となっています。兼松病院の入院患者さんは、できることなら自宅へ退院したいと希望される方が非常に多く、その願いを叶えるため様々な工夫や取り組みがなされています。自宅へ帰ってから必要になる動作は何かを考え、買い物や移動手段としてのバス乗降練習、調理や軽作業、またレベルに

合わせて四段階の浴槽を使った入浴練習もリハの中で実施しています。また夜間のトイレ移動は安全に行えるのかを確認するために、リハ職員も定期的に夜勤を行っています。退院前には、ご自宅へ同行し、必要ならば住宅改修のアドバイスをしたり、実際に入浴したり、洗濯や調理を行いま



す。そして最近希望される方が増えているのがお墓参りの練習です。急な坂道や階段の上がり降りを一緒に安全確認することにより、再び安心して行くことができると、ご家族にも喜ばれているようです。退院時には、自宅でもリハを続けてもらい、体力を維持して再入院を予防するために、リハ職員自作のDVDやパンフレットをプレゼントしています。馴染みのある顔が写っていることで、患者さんも親しみを持って続けていけるようです。今後は病院と在宅、地域との連携が今以上に求められます。退院後も医療・介護保険サービスは勿論のこと、ボランティア活動にも積極的に参加し、地域に貢献していきたいと考えています。「住み慣れた地域でいつまでもいきいきとした生活が送れるように」を合言葉に、病院内外で活躍できる人材の育成を行いたいとのことです。

■ 乳腺外来

放射線部では、少しでも乳がんマンモグラフィー健診への抵抗感を和らげたいとの思いから、平成28年4月より女性放射線技師を配置し、早期発見・早期治療に努めています。同年代の女性芸能人が発病したこともあり、患者さんの関心が高まっているようです。



「地域医療連携」について

徳島大学病院患者支援センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しを目指して、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。

問い合わせは

兼松病院
徳島県鳴門市撫養町齊田
字大堤54
tel.088-685-4537

■ 説明は
(左上から) 合田弥生(ごうだ・やよい) 社会福祉士、黒上公美子(くろかみ・くみこ) 統括主任理学療法士、清田陽平(きよた・ようへい) 主任理学療法士、佐藤守(さとう・まもる) 放射線部技師長、岡田芳夫(おかだ・よしお) 事務長

